

A：「お父さんもお母さんも、弟ばかりかわいがってさ……私も弟はかわいいよ……。」

担：「小さい子のめんどうみがいいんだね、A子は。」

A：「お姉ちゃんは何でもできるからすごいんだ。でも、何でも命令するから嫌いだ。」

担：「A子は自分でできるようになりたいんだね。」

A：「お父さんはこわいよ。なぐるんだもん。」

担：「おしっこ、もらした時かい？」

A：「1年生の時ね。……だからお父さんには、わからないようにしてるんだ。でもこの頃お母さんはやさしくしてくれるのでうれしいんだ。」

● マラソン大会まであと数日、「ビリになってもだれも笑ったりしないよ。」「3年生は全員完走しようよ。」との級友の声にはげまされ、見事に2位に入賞した。この成果を両親とともに大いにたたえた。

● 母親との面接で

母：「主人は子どもがかわいそうなくらい叱るんです。A子には特に。私も主人との折り合いが悪かったものですからいらいらして。どこか良いところを見つけてほめてやらねばと思っ

てはいるのですが。どこをどうほめていいのかわからなくて。」

担：「すばらしいですよ、お母さん。いつでもそんな気持ちで接すれば……A子はいい子ですよ。」

母：「考えてみれば、かわいそうな子だったんですね。主人にも話してみます。」

(ここでほめ方をロールプレイングで練習する。)

<その結果>

● 母親に素直に甘えるようになった。

● 洗顔、歯みがき等の習慣が身につき、身なりもきちんとしてきた。

● A子から友達に働きかける姿が見られるようになった。

● バウムテストでも、内容が少しずつ豊かになってきている。外界に対する対応の仕方が変わってきているのがわかる。しかしまだまだ温かく包まれたいという願望は残っている。

(4) 1月～3月(おもしろ0回) ③ ④

● 学校では、代理父親(学級担任があたる)代理母親(養護教諭があたる)を次の理由で設定した。

● 問題の改善を更に図る。

● 「どうしてA子だけが厳しくされないの?」という不満の声を学級経営上無視できなくなった。

● 父親の協力があまり得られない。

● 包み込むやさしさと同時に、ものごとに立ち向かう厳しさをも経験させる段階に入っている。

(代理父親の役割→けじめやきまりの大切さの指導。
代理母親の役割→友達とのいさかきがあった時など、なぐさめ甘えさせ聴いてやる。)

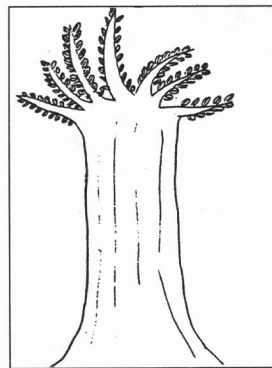
<その結果>

● 担任に対するべたべたしたまつわりつきがなくなった。

● 遊びや係の仕事でいやな事があっても、泣きさけぶことはなくなった。

● 授業中ノートをとるようになり、また宿題の忘れなども少なくなった。

8. 考 察



バウムテストからは、外界に対して伸びようとする意欲がみえてきた。内面の成長もみられ、固さもとれてきた。

ソシオ・メトリックテストでは、排斥は1名のみと減り、逆に選択する子が4名に増えた。

問題解決の理由として

① 担任とのラポールがとれた。

② 継続的に治療を行った。

③ 「A子も同じ学級のひとり」という担任の考えに、学級全体をうまく同調させることができた。

④ 担任の熱意が母親の心を動かした。改めて教師の姿勢や努力の大切さを痛感させられた。